

○長尾山総合公園について

市議会
帰山寿憲議員



※Park-PFI 飲食店、売店等の施設設置と、その施設から生じる利益を活用して、周辺の園路等の整備改修を一体的に行う者を公募により選定する制度

問 長尾山総合公園の現在までの取り組みと今後の見込みについて説明を求めます。

答 長尾山総合公園の当初の整備計画は、平成8年に公園全域での基本構想を発表し、その後1期エリア内の工事に着手し、

県が建設する恐竜博物館や、市が設置する公園施設の整備を平成15年度まで行ってきた。その後、2期エリアではスポーツ施設などの整備を行うとしていたが、厳しい財政状況を鑑み、平成15年に2期事業の一時凍結を表明した。

その後、長尾山総合公園基本構想で2期エリア内に建設する計画であった新体育館は、利便性などを配慮し市街地で建設することとなり、2期エリアの活用は、都市計画マスタープランにおいて、自然公園の森として整備を進めていくこととした。1期エリアでは、開園当初は40万人の来園者を想定した施設整備を行ったが、平成25年度に初め

て年間入館者数が70万人を超えたことから、駐車場や施設整備が急務となり、恐竜博物館周辺の効果的な施設整備を、平成26年度に都市再生整備計画事業の計画変更を行い実施した。

一方、民間施設の設置については、平成26年に民設民営の遊戯施設を公募により選定すると共に、平成30年には観光交流センターに併設したジオスタミナルを誘致するなど、民間活力の導入を図ってきた。

今後の予定については、恐竜博物館機能強化の計画概要が定まったことから、建設場所や資材搬入路の検討、既存施設の代替計画などについて協議を重ね、来園者への支障が少なくなる提案をしていきたいと考える。また、Park-PFIなどによる民間活力の導入について、国土交通省所管の先導的官民連携支援事業の採択を目指し、公園全体を考慮した事業計画について検討していく。

○非常時から見える問題とこれからの課題

市民の会
中山光平議員



問 観光産業等、いわゆるインバウンドというものは、その性質上「外」の状況や需要に依存するものとも言える。

災害等で左右されるだけではなく、今回のようなウィルスの場合には人混みでの感染拡大等、その悪影響すらも取り込むという危険もはらんでいる。このような観光産業の脆弱性、問題点に対し、勝山市はどのように考え、対策していくのか。

私は一番に比重を置いて投資すべきは「内」、つまり市民に対して投資することが肝要だと認識している。例えば、子育てや教育、生活インフラ等、住んでいる者が住み続けたいと思えることが適当と考えるが、勝山市の認識を問う。

また、マスクの備蓄量等、勝山市としても頭を悩ませていると思われる。今後、のためにも全国規模の感染症に対する計画を立てるべきではないか。

ながら、当市が所管する施設への対応の徹底化を図り、観光地の感染対策に努めている。

令和5年には北陸新幹線福井開業、恐竜博物館の増改築による機能強化を控えているが、今回の新型コロナウイルスの流行で得る知見を活かし、不意に訪れる感染症の発生に対応できるように、県とも協議を続けていきたいと考えている。

インバウンドの持つ政治問題も含めた脆弱性を認識し、観光の産業化を進め、教育、福祉などの生活インフラの充実にも邁進していきたい。

全国規模の感染症に対する計画については、現在勝山市が持っている新型コロナウイルスエンザ対策の行動計画を準用して対応したいと考えている。国の法的な根拠は今回の新型コロナウイルス感染症に関して存在していないので、国では性急な法整備を進めている。それを見て勝山市でも必要な対応を取りたいと考えている。